

Panasonic

建築設計

REPORT
ARCHITECTURAL DESIGN REPORT
vol.41 2022・05

特集 — 未来の働き方をリデザインする



根津 孝太

Nezu Kota [znug design 取締役 / クリエイティブ コミュニケーター / デザイナー]

クリエイティブなコミュニケーションを
空間としてデザインする



人はコミュニケーションにより社会を形成することで進化してきた。その重要性が再確認されたのが新型コロナウイルス感染症下の社会。リモートワークの有効性が確認されたものの、情報と体験を共有する空間への渇望はより増している。最近では、多彩なコミュニケーションのための空間を備えたオフィスも多く見られるようになった。カーデザインをはじめとして、人とモノの関係をデザイナーの視点で問い合わせ続けている根津 孝太氏に、クリエイティブ・コミュニケーションのあるべき姿をたずねた。

問題意識を高めるために 社会を見る解像度を上げる

— デザインをどのように捉えられていますか。

デザインとは何かしらの問題解決です。強い問題意識が一番のモチベーションであり、社会を見る解像度を上げていくと、さまざまな問題意識が現れてきます。それを解決できるのがデザインだと思っています。もちろん、デザインという意味には最終的にきれいな形を造るスタイリングも含まれるのですが、その根源的な「モノの存在意義」を問われた時には、それが何の解決になるかが重要です。そのプロジェクトやモノの意味を考え抜いて、世の中に必要とされているなら、どんな苦労をしても生み出したいと思っています。社会を見る解像度を上げるために、幅広い分野の知識が重要で、何にでも関心を持つことが大切です。しかし、人に一番影響を与えるのは人です。誰かと話をする間に、その人が語る事象に対する解像度が飛躍的に上がっていき、自分がアップデートされ続けていきます。

アイデアは敵の中にある

— 自動車メーカーでは何をされていたのですか。

当時はカーデザインを担当しており、2005年に開催された「愛・地球博」では「i-unit」のコンセプト開発チームのリーダーを任せました。当時、チームに広報の方がいらして、「そんなことをしたら、こういうことが起きる恐れがある」など、僕たちの言うことをほぼ全て否定しました。プロジェクトがちっとも進まないので「この人が外れたら良いのに」くらい思い詰めていました。しかしある時、その人が以前「お客様関連部」という部署にいらしたことが分かりました。その会社には「不具合展示会」というものがあり、お客様の苦情が聞ける電話が置いてあるんですが、そこで受話器を取って録音された怒りの声を聞くと、僕なんか3日くらい気分がへこんでしまいます。あの人はこれをずっと経験してきたんだと分かった時に、言われていたことが腹にストンと落ちました。ただネガティブなことを言っているのではなく、この人には未来が見えていたのだと分かったのです。不思議なもので、その人へのリスペクトが生まれると、向こうもこちらをリスペクトするようになって、今まで歩み寄ることができなかつたことでも、一緒に

落とし所を見つけようという空気に変わっていました。自分と全く異なるバックグラウンドを持つ、異なる思考回路の人とコミュニケーションすることで、予定調和ではない、レイヤーがひとつ上のアイデアにたどり着けるのだと思います。これが、著書のタイトルにもした『アイデアは敵の中にある』です。このようにして、「動いて会う」という「i-unit」のコンセプトは生み出されました。「愛・地球博」は環境博なので、乗り物ならではの社会貢献ができないかと考えました。「動きたい」という気持ちと「動く」ことをシームレスにつなぐことによって、訪れた土地を好きになり、そこで出会った人を好きになる。そうすると、社会や環境を大切にする気持ちも、もっと大きくなるのではないか。こうして、移動することによって、世の中に対して自分の気持ちをポジティブに拡張するツールを提示できたのです。



Toyota i-unit (2005) 低速姿勢モード
© トヨタ自動車株式会社

相手の遺伝子をもらってまだないものを生み出す

— その後、電動バイクを手掛けられましたね。

独立した僕が電動バイクzecOO（ゼクウ）を造りたいとトヨタ時代の友人に相談した時、紹介されたのが千葉県にあるオースタッフ未広というバイクショップの社長、中村さんでした。菓子折を持って相談に行ったのですが「電動バイク？うーん」という、取り付く島もない塩対応。「それより俺、やりたいものがあるんだよね」と言われたのがOuroboros（ウロボロス）という3輪のトライクでした。気が付くと「そのデザイン、やらせてください」と言っていました。結果として良かったのは、トライクと一緒に造ることによって、オースタッフ未広さんの得意な技術や工法を肌で理解できたことです。

僕は映画「エイリアン」の生物としてのコンセプトが大好きです。人間に寄生したエイリアンは人間ぼく、犬に寄生したエイリアンは犬っぽい。つまり、宿主はその環境に適応しているはずだから、宿主の遺伝子を半分もらって最適解を生み出そうというのが、エイリアンの生存戦略なのです。同様に、僕はオースタッフ未広さんに寄生して、最初は手探りでしたが、途中から楽しくなってOuroborosを造りました。zecOOは、この造り方をさらに発展させ、このチームでしか生み出せないユニークな構造やデザインを煮詰めていきました。きっと、Ouroborosを手掛けずにzecOOを造っていたら、もっと独りよがりのものになっていたでしょう。

コミュニケーションをデザインする

— 両方ともコミュニケーションに関わるお話ですね。

コミュニケーションをデザインするということは、どういう意図でコミュニケーションするかということだと思います。僕はいつも結論あ



Ouroboros (2008) © オースタッフ未広 zecOO (2011) © znuug design, inc. (p) Kazunobu Yamada

りきでは会議に臨みません。自分としてフルスイングした仮説を、絶対これだと思って自信満々で持って行きます。しかし、それをそのまま持ち帰ってきたらその会議は全く意味がなかったと思っています。誰かと誰かが会って、化学反応をして、互いに思っていることに変化があって帰ってくる。それが会議の本質で、クリエイティブなミーティングのあり方です。3人寄ったら3人分の知恵や思いが合わさって、より高いところに行けるはずです。自分だけではたどり着けないレベルに到達するために相手に伝える言葉が「なるほどね」です。表層的に意見が対立していたとしても、同じ課題を解決しようとしているなら、根源的なところまで戻って考えれば、必ず合意点が見いだせます。そこで「それなら、こうしたらどうだろう」と共に知恵を絞ることで、そのチームでなければ到達できないところに行けるのです。

根津 孝太氏

1969年東京生まれ。千葉大学工学部工業意匠学科卒業。1992年株式会社トヨタ自動車入社、愛・地球博「i-unit」コンセプト開発リーダーなどを務める。2005年有限会社znuug design設立、多くの工業製品のコンセプト企画とデザインを手がけ、ものづくり企業の創造活動の活性化にも貢献。『町工場から世界へ』を掲げた電動バイク「zecOO」、やわらかい布製超小型モビリティ「TrimOnO」などのプロジェクトを推進する一方、GROOVE X「LOVOT」、トヨタ自動車コンセプトカー「Camatte」「Setsuna」、ダイハツ工業「COPEN」、「THERMOS」ケータイマグ「JMY」「JNL」「JNR」、Afternoon Tea ランチボックス「LUNCH WARE」、タミヤミニ四駆「Astralster」「RAIKIRI」などの開発も手がける。ミラノ Salone del Mobile "Satellite"、パリ Maison et Objet 経済産業省 "JAPAN DESIGN +"など、国内外のデザインイベントで作品を発表。受賞:グッドデザイン賞 2020(経済産業大臣賞)、CES 2020 INNOVATION AWARD、COOL JAPAN AWARD 2019、日本感性工学会 かわいい感性デザイン賞最優秀賞 2019/2016、ドイツ iFデザイン賞 2010、など多数。2014~2021年度 グッドデザイン賞審査委員。GROOVE X 株式会社 Chief Creative Officer、ヤマハ発動機株式会社 デザインアドバイザー、hide kasuga & Partners パートナークリエイター。著書:『アイデアは敵の中にある』(中央公論新社)、『カーデザインは未来を描く』(PLANETS)。



集まるからできる「弱いつながりの強さ」

— オフィスにおけるコミュニケーションはどうあるべきですか。

コロナ禍でリモートワークを積極的に進めてきた大手IT企業がレポートを出しました。そこには「弱いつながりの強さ」の重要性について記されています。「ミーティングをするので、みんな集まれ」と言うのは強いつながり。そこには強制力が働いていて、集まる人には共通の知り合いがたくさんいます。そうではなく、ジュースの自販機の前で、たまたま出会った別の部署の人と会話を交わしたりするのが弱いつながりです。こうしたつながりは、多様な情報を早く広くに伝え、イノベーションが起きたり、新しいアクティビティにつながったりすることがあります。このレポートは、偶然のものも含めて、人がリアルに会うことの重要性を指摘しているのです。

もちろんリモートワークにも良い点は多くありますし、移動時間を無駄だと判断すれば、効率も良いということになります。しかし、失っているものもあると思います。一緒に空間にいることで、話者が相手の微細な表情の変化やしぐさを見て振る舞いを変えるなど、お互いに対する解像度が上がります。会議のように皆が話す場では、これが参加者全員に起こるわけで、全体のパフォーマンスが高まるのです。リモートのツールで、これができないと言い切るつもりはありませんが、今の技術では、リアルに場をシェアしていることによる情報量の多さに勝ることは難しいでしょう。

これまでには「とりあえず会議を開催して集まろう」という風潮がありました。しかし、リモートを経験した今だからこそ「ここはリアルに集まつた方が良い」と意識できるようになり、実際に会うことの貴重性を理解できるようになったと思います。

リアルとバーチャルの距離感をコントロールする

— 集まる環境を整えることも重要なですね。

これからは、距離感のコントロールがポイントになるだろうと思っています。リアルとバーチャルのそれぞれの良さも理解できたり、せっかくオフィスがあるなら、出勤する人が減って広くなった場所を使って、これまでにないコミュニケーション空間を造ろうということになりました。同じ場所に集まつた時の距離感の作り方、関係性の作り方にも自由度が出ています。

また、リアルとバーチャルを融合した、さまざまな技術も登場しています。バーチャルだけど、まるで同じ部屋に居るかのように、お互いの距離感を感じさせる技術もあります。人は意識・無意識の両方で環境から影響を受けますが、環境や関係性をコントロールする要素技術は、すでにかなり揃ってきていると思います。これを組み合わせた時の効果に、とても興味があります。このような、さまざまな技術を複合することで、人と人の関係性を心地良く整え、人のパフォーマンスを向上させることができる時代になったのではないかでしょうか。

クルマに学ぶパーソナルワークプレイス

— パーソナル空間についてお聞かせください。

クルマを、生活の場でなく仕事の場でもない、第3の場所にしようと考えているメーカーがあります。そこを、仕事をしても良いし趣味に使っても良い、パーソナルな空間だと定義しています。たとえばソロキャンプが流行っていますが、あれも第3の場所です。なぜ一人でキャンプに行くのかというと、その環境が人に良い影響を与えてパフォーマンスを上げるからです。朝になったら満員電車で会社に行って、残業をして電車で帰るという定型フォーマットが崩れてきたからこそ、どういう空間に身を置いてパフォーマンスを高めるかを、自分で意識して決めることが重要になったのでしょうか。

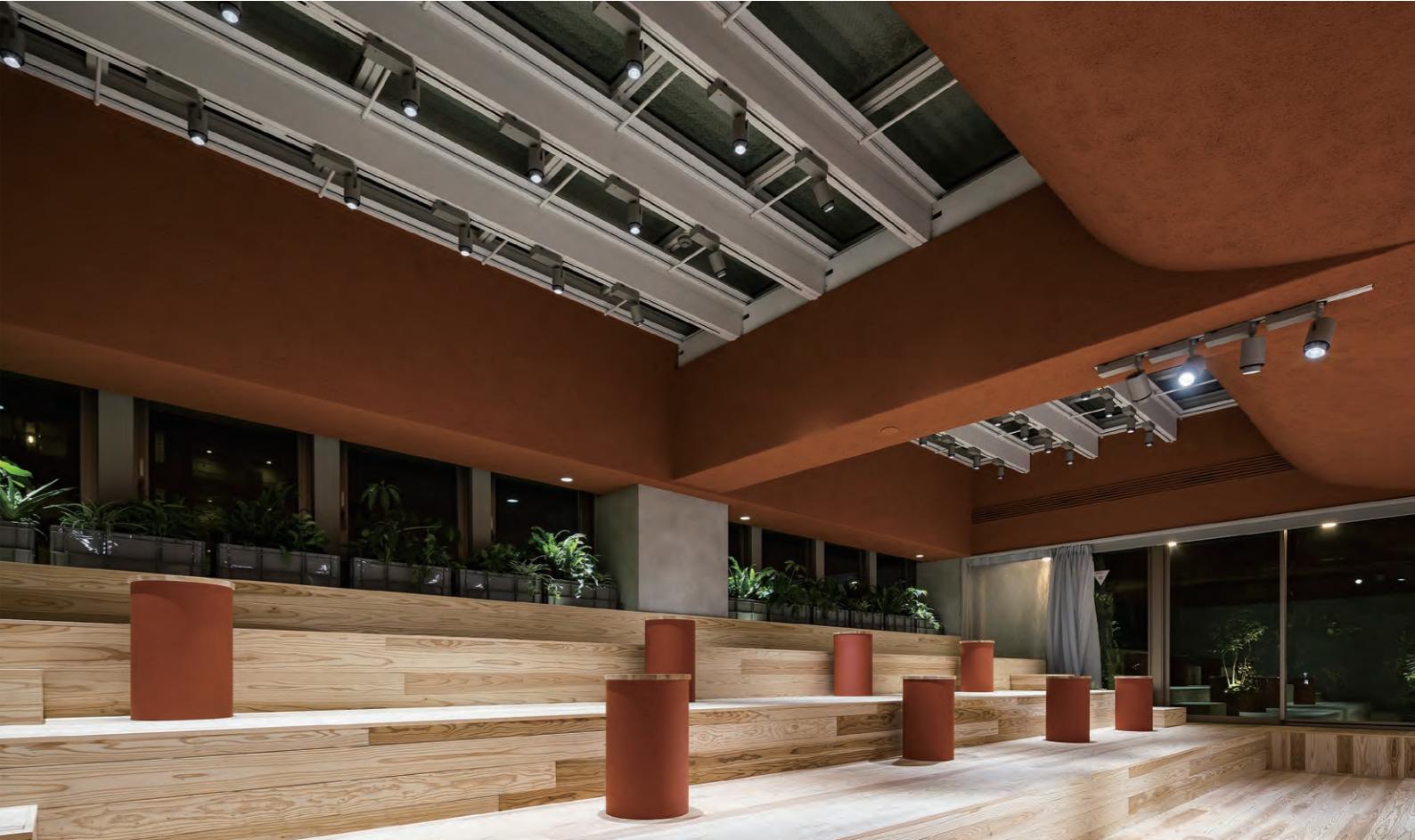
また、人と会って仕事をする場合も、一人で仕事をする場合も「座る」ことが多いと思いますが、「座る」ということは関係性を決めることがあります。関係性には人ととの関係性もありますが、人とモノとの関係性もあります。どういう音を流してどのような明かりの環境に座れば良い気持ちになれるか、パフォーマンスを上げることができるかを考えると、スピーカーや照明の位置も含めて、周囲にある全てのものがファクターとして関係してきます。人を基点として、光、音、音楽、温度など、どのような関係性を決めていけば快適な場所になるのか、僕はこのような課題を、クルマという制限がある空間で考えてきました。これが、パーソナルなワークプレイスを考える場合に役立つかもしれません。

— ありがとうございました。

浅沼組名古屋支店



© 株式会社浅沼組



(左) 執務室などから漏れる光でバルコニーを照らすとともに、各フロアのバルコニー両端にアッパースポットライトを設置して1本の吉野杉が貫通する情景を創り出している
 (右上) 日没後は照度確保が難しいため、8階ホールではトップライト梁部にスポットライトを設置
 (右下) 風除室につながる底にΦ75のグレアレスダウンライトを均等に配置し、スロープにはアクセントとしてガーデンライトを設置している



自然を積極的に取り入れた 環境配慮型低炭素オフィス改修

浅沼組は、「人間にも地球にも良い循環」をつくる「GOOD CYCLE BUILDING」を提唱。これは、従来のスクラップアンドビルトを改め、既存躯体を生かした設計や、建設残土・プラスチックも資材と捉えてアップサイクルする技術によって環境負荷を減らす考え方。その第1弾・フラッグシップとして、築30年を経た名古屋支店を環境配慮型ビルへと改修、2021年9月にリニューアル竣工した。

既存躯体を活用し、自然の光や風を取り入れるとともに、新たに加える材料には可能な限り土や木などの自然素材が用いられた。従来はガラスカーテンウォールで覆われていた西向きメインファサードには、1本の杉から取れる大きな径の丸太を未乾燥のまま配置。これにより、樹が自然に立っている姿と同様の印象を与えている。

この改修では、使用エネルギーを旧社屋の50%以下に削減するZEBreadyと、利用者の健康や快適性を評価するWELL認証(v2pilot版)取得が設備のテーマとされた。

外光を取り入れるためにファサードは全フロアにテラスを設けるとともに、窓面を2.5mセッタバッケ。最上階8階では既存スラブの南側を除去して大きなトップライトを配した上で、遮光ルーバーが設けられている。

照明計画では、器具をタスク・アンビエント照明として机上面照度を500lx程度まで抑制。外光を多く取り入れているため、無線調光システム「WiLIA」を導入して各所に昼光センサを配置し、きめ細かな昼光制御による消費電力削減が図られている。

また、WELL認証では、定常的使用空間(執務室やホール)においてサーカディアンリズムに影響する明るさが評価基準となるため5000Kの昼光色を採用し、鉛直面照度も確保。2021年3月に、築30年のオフィスビル改修では国内で初めて、WELLの予備認証を取得している。

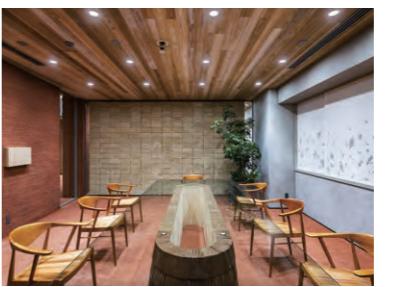


浅沼組名古屋支店

■リニューアル工事
所 在 地／名古屋市中村区名駅南
事 業 主／株式会社浅沼組
設 計・監 理／川島範久建築設計事務所
株式会社浅沼組
施 工／株式会社浅沼組
リニューアル竣工／2021年9月
© 株式会社浅沼組



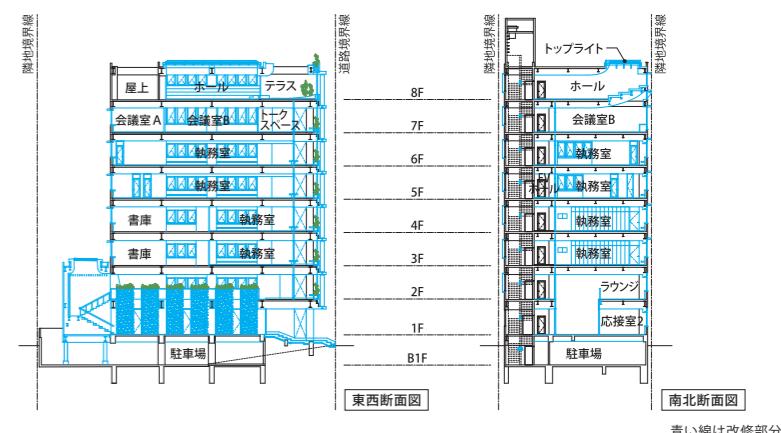
既存スラブ南側を除去し、天井を南に向かって反り上げることで冬の日射を取り込む7階会議室



製材時に発生する吉野杉の樹皮を土台に使用したテーブルが設置された1階応接室「木の部屋」



因州和紙に木の葉を漉き込んだシェードが配された6階打合せスペース



主な納入設備

- ・一体型LEDベースライト
- ・LEDダウンライト
- ・LEDスポットライト
- ・LEDガーデンライト
- ・無線調光シリーズ「WiLIA」



△(上)ゲレア制御タイプのライン照明を全般照明とし、側面にダウンライトが配された6階執務室
(下)吹き抜け2階のラウンジでは高ワットのユニバーサルダウンライトで床面照度を確保。植栽部のスパイクスポットライトで天井に葉の影を映し、木漏れ日のように演出



(左上)約3.6mの天井高とガラスカーテンウォールを生かした開放感のある4階ラウンジ (右上)建築化照明とダウンライトで構成された7階ラウンジ
(左下)4階から5階へと続く内部階段踊り場から4階ラウンジを望む (右下)庭園のようにライトアップされた8階スカイデッキから市街地を望む

MFLP 船橋Ⅲ

多様化する物流拠点のオフィスにくつろげるワークプレイスを整備

近年、ネット通販の拡大、宅配便の取扱個数の増加などとともに、梱包・発送などの業務が加わり、倉庫の役割が変化している。総延床面積約70万m²の街づくり型物流施設「MFLP(三井不動産ロジスティクスパーク)」は、物流施設を中心として、地域社会との共生と周辺エリアのにぎわい創出をめざした複合型拠点開発。8年をかけた開発の集大成として、敷地内3棟目の「MFLP船橋Ⅲ」が2021年6月に竣工した。これは地上8階建て、延床面積約27万m²の大型物流施設で、トラックバース、倉庫、オフィスで構成され、輸送

会社をはじめネット通販会社などが入居する。共用部には、従業員のためのラウンジ空間や街並みが一望できるテラスなどが設けられた。照明計画では、建築化照明とダウンライトを中心としたベース照明の色温度を低く抑えることで、天井の高い空間(天井高約3.6m)を温かい雰囲気に演出。屋外テラスでは、庭園のような環境演出に加え、アッパーライトで天井面やルーバーを照射することで広がり感を与えている。また、屋上には約1MWの太陽光発電設備を設置してCO₂排出量を削減。CASBEE・Sランク、BELS・5スターを取得し、入居テナントの物流の課題を解決するだけでなく、地域にも貢献する施設となっている。



MFLP船橋Ⅲ

所在地／千葉県船橋市浜町
事業主／三井不動産株式会社
設計／株式会社大林組
施工／株式会社大林組
内装設計／ゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッド
竣工／2021年6月



約2万ルーメンのプロジェクターが壁面にテクスチャーを投映しているエントランス



打合せコーナー(奥)も設けられた4階ラウンジ



折り上げ天井を間接光で照らす5階の無人コンビニ



無人コンビニからアクセスできる5階テラス



建築化照明で縁取られたオフィス・倉庫ゾーン出入口



屋上に設置された約1MWの太陽電池モジュール



主な納入設備

- LEDダウンライト
- LED建築化照明
- LEDスポットライト
- LEDフットライト
- 太陽光発電システム
- プロジェクター

ウェブサイトでもご覧いただけます





フリースペース「コロパーク」に設置された「エアリーソリューション」(中央奥)

株式会社コロプラ

感染症対策と生産性向上にこだわり
コロナ後も見据えた次世代型オフィス
スマートフォンアプリを中心とした国内・海外向け
モバイルゲームサービスなどを提供している株式
会社コロプラが、2022年2月にオフィスを東京ミッド
タウンに移転した。ここでは、徹底した感染症対策
や社員のモチベーションと労働生産性向上にこ
だわる次世代型のオフィスが追求された。株式会
社コロプラ 取締役 原井 義昭氏は「オフィス移転
にあたり、従業員がコロナ禍でも安心して働きな
がら、クリエイティブな活動を支える環境を提供し
ようと考えた。感染症対策の調査パートナーとして
大学などの研究機関も候補に挙がったが、感染

症対策に繋がる商品を提供し、メーカーとして科
学的なデータを集めているパナソニックの『くら
し・空間コンセプト研究所』を選び、厚生労働省や
CDC*などのエビデンスに基づいた感染対策(接
触・飛沫・空気)を検討した。その結果、換気設備
の増強や抗ウイルス性素材の選定など、さまざま
な設備や建材を採用する中で、『エアリーソリュー
ション』の導入も決めた」と語る。エアリーソリュー
ションはダウンフローにより浮遊している小さな
飛沫「エアロゾル」を床に落とし、毎分約12,000L
の空気を浄化する設備。ブース内だけでなく周り
の空気も循環させて洗浄することで、円滑なコ
ミュニケーションの実現が期待されている。

*Centers for Disease Control and Prevention
(米国・疾病対策予防センター)



株式会社コロプラ

所 在 地 / 東京都港区赤坂
事 業 主 / 株式会社コロプラ
プロジектマネージメント / 株式会社ディーサイン
デ ザ イ ン 設 計 / 株式会社SIGNAL
グランドオープン / 2022年2月



ルーバーから流れる空気が下方方向の均一な面気流を発生させることでエアロゾルを床に落とす
「エアリーソリューション」



会議室に設置された0.3μm以上の粒子を99.97%
以上捕集するHEPAフィルター搭載の空気清浄機



感染症対策検討により大幅に増設された
換気用ダクト



抗ウイルス性素材リノリウムの床材が採用された
エントランスホール



リノリウム素材の床と什器で構成された
「クマ図書館」

主な納入設備

- エアリーソリューション

ウェブサイトでも
ご覧いただけます





基準階貸床面積は約2,370m²（写真は16階）。システム天井には白色（色温度4000K）の一体型LEDベースライト フラットパネルタイプが採用された

天神ビジネスセンター

“福岡をもっと面白く”する天神ビッグバンによる規制緩和第1号プロジェクト

福岡市は博多駅周辺や福岡空港、博多港といったゲートウェイを連携させ、核となる中心市街地で都市改造に取り組んでいる。天神交差点から半径約500mの約80haで行われているプロジェクト「天神ビッグバン」では、航空法高さ制限の特例承認や市独自の容積率緩和制度などを組み合わせ、民間活力を最大限に引き出しながら、耐震性が高く感染症にも対応した先進的なビルへの建替えを促す。その規制緩和第1号が地上19階、地下2階の「天神ビジネスセンター」。福岡地所株式会社 建設部長 田代 剛氏は、「当社のミッションは“福岡を

もっと面白く”。不動産開発を通して福岡の都市力を高め、魅力を上げていくことで、福岡をより多くの人や企業を惹きつける都市にしたいと考えています。福岡中心部ではグローバルな水準のオフィスビルが不足していることが課題でした」と語る。2~19階の総貸床面積は約39,280m²。天井高2,800mmの無柱空間には、一体型LEDベースライトフラットパネルタイプが採用され、入居者が照明環境をカスタマイズできるように、照明制御システムを導入。人感センサや窓側の昼光センサにより消費電力を削減し、環境性能向上の一翼を担う。なお、このビルは、「CASBEE福岡」Aランク、「DBJ Green Building認証」※では4つ星を取得している。

※日本政策投資銀行により創設され、日本不動産研究所が認証を行う、環境・社会への配慮がなされた不動産への認証制度



天神ビジネスセンター

所 在 地／福岡県福岡市中央区天神
事 業 主／福岡地所株式会社
基 本 設 計／株式会社日本設計
実施設計・施工／前田建設工業株式会社
電 気 工 事／株式会社きんでん
建 築 デザイン／重松象平（OMA）
竣 工／2021年9月

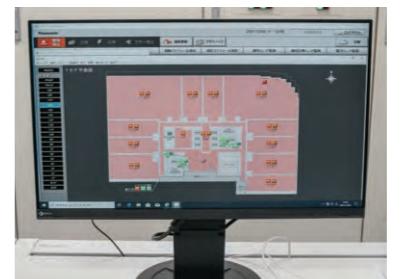
©Toshihisa Ishii



パネルにプリズム加工を施すこと、従来ルーバータイプと同等のまぶしさ制御を実現



窓際の器具には昼光センサを設けて消費電力を削減



防災センターに設置された
照明制御システム操作卓



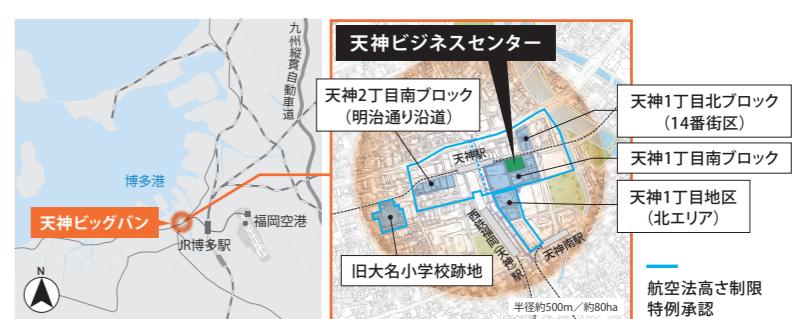
各階のEPSに設置された
ライトマネージャー Fx



新しくデザインされた明治通りの街路灯



地下鉄天神駅のデジタルサイネージ



主な納入設備

- ・一体型LEDベースライト フラットパネルタイプ
- ・照明制御システム FreeFit MX
- ・非常用放送設備
- ・ネットワークカメラ
- ・ライトマネージャー Fx

ウェブサイトでも
ご覧いただけます





(左上)入口の近くに設けられた「充電エリヤ」の「SWiTCH SPOT」 (右上)キャンプフィールドにいるような開放感にあふれたキャンピングオフィス
(左下)流木のスタンドが配された「充電エリヤ」のカフェコーナー (右下)「加速エリヤ」と位置付けられた課単位のフリーアドレスエリヤ

パナソニック エナジー株式会社 セル開発統括本部

“Crazy and Cool”をコンセプトにこれまでにないオフィス環境を創造車載用・非車載用リチウムイオン電池の開発を担うセル開発統括本部が2021年11月に新オフィスに移転した。当本部はテスラ社との協業により、事業・人員ともに急拡大し、オフィス環境の改善が急務となっていた。計画にあたっては、固定観念にとらわれないベンチャー企業であるテスラ社と、百年企業との間にある差を埋めるのは“Crazy and Cool”だという考えをコンセプトに取り入れ、斬新性と機能性にあふれたオフィス環境の創造がめざされた。このために編制されたオフィス改革委員会は「オフィスを人と人、人と

情報、情報とアイディアなど、多様なモノゴトが入り交じり、つながることで新たな価値が生まれる空間と捉えるとともに、リチウムイオン電池の概念をレイアウトに展開して、オフィスの中に『加速』と『充電』のエリアを配置。『充電エリヤ』をオフィスに散在させ、2つのエリアを行き来して働くことで、走り続けるオフィスをめざした」という。「充電エリヤ」では、再生可能エネルギーをイメージする太陽・風・自然をキーワードとして設定し、「SWiTCH SPOT」、キャンピングオフィス、カフェコーナーなどを配置。今回のオフィス改革を通して、アイデアとノウハウを蓄積し、次の改革にアップデートし続けていくことが想定されている。

パナソニック エナジー株式会社 セル開発統括本部

■オフィス・リノベーション工事
所 在 地／大阪府守口市松下町
事 業 主／パナソニック エナジー株式会社
設 計・施 工／パナソニックLSエンジニアリング株式会社
設 計 協 力／株式会社イトーキ
竣 工／2021年11月



太陽の赤をモチーフにした、3つのABC会議室



太陽・風・自然の色彩をタイルカーペットに採用



執務席と視覚的につながった会議室



木の温かさを感じさせる壁面とテーブル



太陽をイメージした椅子を配したコーナー



課単位のフリーアドレスが採用された執務室



- 加速エリヤ
業務を共有するチームが集まって熱中して働く課単位のフリーアドレスエリヤ
- 充電エリヤ
他部門の人と交流し、異なる視点を取り入れて考えをまとめ、ソロワークに落とし込むエリヤ
- 会議エリヤ
- ① SWiTCH SPOT
- ② カフェコーナー
- ③ キャンピングオフィス
- ④ ABC会議室

主な設備

- SWiTCH SPOT
- LEDベースライト
- LEDスポットライト
- LEDペンダント
- スペースプレーヤー

ウェブサイトでも
ご覧いただけます





フロアの中心は、対話を促す開放的でオープンな空間に。天井に備え付けられた「エアリーソリューション」が清潔な空気環境をつくりだす

パナソニック東京汐留ビル PERCH LOUNGE

Well-beingな働き方を実現する 自由度の高いシェアフロア

パナソニックは出社制限やリモート勤務の定着などを背景に、エレクトリックワークス社の働き方改革の一環としてオフィス整備を推進。全員出社ではない働き方を前提に、パナソニック東京汐留ビルの2階を、社員用のシェアフロアとして改修した。フロアコンセプトは“止まり木”的意味をもつ「PERCH」。人が立ち寄り、行き交い、営業のタッチポイントとなるような場をめざす。

重要視したのはWell-beingな働き方。清潔な空気環境をつくりだす「エアリーソリューション」の導入や、持ち運びしやすい次世代型モバイル

バッテリーの設置により、安全・安心でストレスのない環境の実現をめざした。また、会議室のシステム天井を表情豊かに演出するベースライトや、建築と一体化したライン照明で、時間やシーンに合わせて多彩なワークプレイス環境を創出する。フロアの入り口には混雑度が見える化できるサイネージを設置し、ワーカー自身がアクティビティに合わせて最適な場所を柔軟に選ぶことができる。プロジェクトを牽引する空間ソリューション事業推進部は、AIネットワークカメラによって定期的にレポートを生成し運用改善に活用。ノウハウを蓄積することで、社内外を問わず「人起点」で空間に新しい価値を創造していく。



PERCH LOUNGE(パーチラウンジ)

■オフィス・リノベーション工事
所 在 地 / 東京都港区東新橋
事 業 主 / パナソニック株式会社
竣工 / 2022年3月



お客様を迎えるエントランスは時間に合わせた照明や音響で空間が多彩に変化



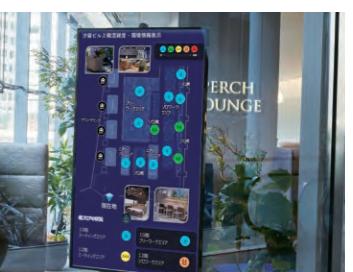
仕事から離れ、心身の切り替えを図る
リチャージエリア



天井照明によって最適な環境を演出する会議室



モバイルバッテリー「e-block」は
軽量・小型で災害時にも対応



リアルタイムに混雑度を見る化する
デジタルサイネージ

主な設備

- ・空間見える化ソリューション
- ・エアリーソリューション
- ・e-block
- ・無線調光シリーズ「WiLIA」
- ・LEDデザインベースライト
- ・LEDベースライト
- ・スペースフレーヤー
- ・ビルトインテクニクス音響システム
- ・ジアーノ・ナノイー発生機

ウェブサイトでも
ご覧いただけます



S様邸

福祉施設のような快適性を備えた
住み継ぐことができる高品位住宅

多摩市の住宅地に、あたかも福祉施設のように快適な設備と空間を備えた住宅が完成した。94歳を迎えた施主様は、人生を思うがまま楽しめるように松本設計ホールディングスに依頼したという。同社代表取締役の松本 照夫氏は、「当社はこれまで数多くの大型福祉施設を設計してきたが、そのノウハウを戸建住宅に生かし、人生を楽しむアクティビシニアのための住宅を供給している」と語る。「長く快適に住まい続けるため、耐震性をはじめとして断熱性や水廻りの耐久性、バリアフリーという課題に加え、身体機能が変化した時にも生活をサポートできるように配慮。また、適正価格で住宅を提供できるように施工部門も備え、住宅履歴情報の管理も行いながら施工し、意匠・構造設計から施工監理まで自社で責任を持つことで品質の高い住宅を提供している。施主様は『終の住まい』と考えられていたので、当初からご自分でできるだけ身の回りのことができるよう車いすの生活を前提として設計した。設計から施工まで、一切妥協のない戸建住宅が提供でき、住宅履歴情報管理もあわせて、住み継ぐ場合にも価値が継承できる住宅が実現できたと思う」と述べる。



玄関とキッチン、バス・トイレが面した1階リビングルームには、車いすのわだちが残りにくい木質床材 ベリティスフロア-Sが用いられている



所 在 地 / 東京都多摩市
設計・施工 / 松本設計ホールディングス株式会社
竣 工 / 2021年5月



3枚扉のスライディングドアは、トイレ、洗面のどちらからでも大開口が可能



介護も容易なようにスライディングドアの背後に並列配置された、高齢者施設向けユニットバス アクアハートとアクアハート洗面、NewアラウーノV



支えられる人、支える人にやさしいアクアハート a-Uシリーズに加え座って浴びるだけで身体が温まるTheシャワーも設置されている



一人でも車いすで上れるように1/14勾配に設定されたスロープ



車いすが回転できるように直径1.5mが確保された玄関



施主様への空間説明に利用した
360度パース

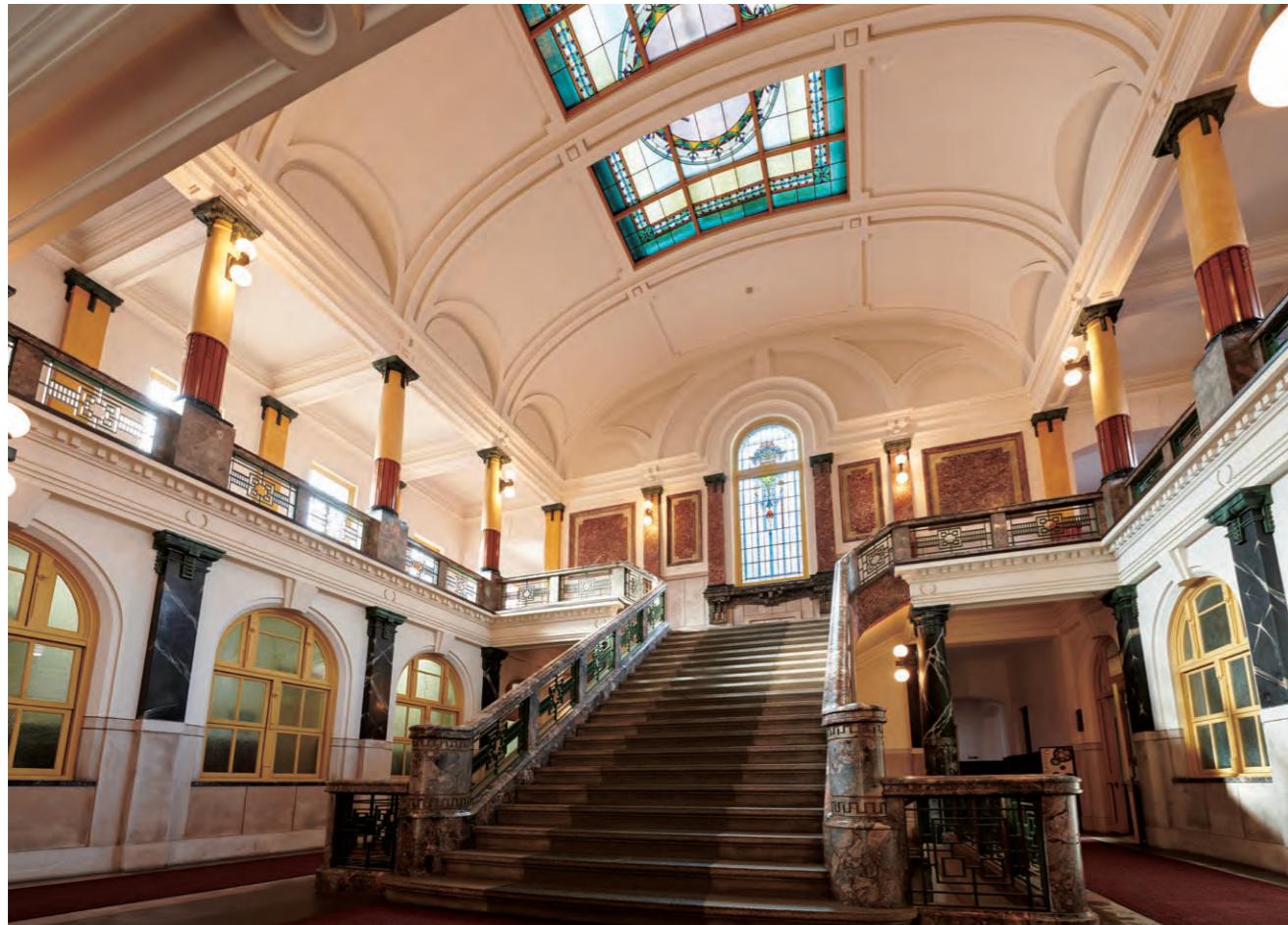
主な納入設備

- ・システムキッチン L-CLASS
- ・アクアハート a-Uシリーズ
- ・アクアハート洗面
- ・NewアラウーノV
- ・インテリア建材 ベリティス
- ・木質床材 ベリティスフロア-S ハードコート
- ・アキスペックフロア-S 石目サニタリーA
- ・LED照明器具

旧名古屋控訴院 地方裁判所区裁判所庁舎

厳肅な裁判を彷彿とさせる ネオ・バロックの控訴院建築

愛知県名古屋市の旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎は大日本帝国憲法下の控訴院(裁判所)として大正11(1922)年に建設された。現存最古の控訴院建築であり、煉瓦および鉄筋コンクリート造の大型近代建築として最後期のものである。国指定重要文化財*。



黒色の柱が並ぶ重厚な2階から美しい大理石の手すりをもつ階段が伸び、明るい配色の3階へと誘う。天井を飾るのは公明正大を表した日輪のステンドグラス。



豪華、壯麗なネオ・バロック様式は国家の威信を表すにふさわしい建築様式として当時、先進諸国で採用された。日本の近代建築において最後期に竣工した煉瓦造の大規模建築物。



①建物正面に高々と上げられたドーム ②かつては菊の紋章が飾られていた ③裁判の公正さを表す神劍と神鏡の装飾。



①2階の独立柱 ②3階の付け柱。いずれも柱上部は高度な漆喰塗りの技法でしつらえている。



3階会議室。モールディングで折り上げ天井を飾り、シャンデリアをつるす。腰板のアサノ式合板は日本で初期のもの。①ギリシャ雷文様や卵舌文様が見られる ②第二次世界大戦終結前まで天皇・皇后の写真を納めていた奉安室。



霜のような模様がある
建設当初の結霜ガラス。



大正11年の名古屋控訴院第2号法廷の再現。法壇中央に3判事、左に検事、右に裁判所書記が法服で着席。手前右は弁護人。



抑えめな装飾の1階階段。1階には留置場があり、裁判中の被告人や起訴されていない被疑者が一時的に収容された。



復原された独房。床は板張りで水道がある。

旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎は司法省営繕課が設計し、司法技師・金刺森太郎を設計監督工事主任として建設された。ネオ・バロック様式の建物は、正面中央にドームを頂く塔屋を建ち上げ、両翼に急勾配屋根の角屋を設ける左右対称の外観。雄大で均整がとれ、イギリス積みの煉瓦の赤色、付け柱の白色が織りなす色調の対比も美しい。古来、ドームは宇宙、天空を象徴する神聖な形とされており、厳肅な裁判が行われる神聖な場所を表したとも言われている。

玄関を入ると建設当時の材料・工法で復原した

中央階段室となる。2階から吹き抜けの3階へは希少な大理石で手すりを装飾したT字型階段が伸び、踊り場で左右に分かれて回廊へと続く。アーチ型ヴォールト天井の中央には日輪を描いたステンドグラス。また、踊り場壁面には罪と罰が公正に釣り合うことを表した天秤の絵のステンドグラスがあり、背後の光庭から入る光で輝く。高度な技術による漆喰の装飾も見どころで、2階の黒色柱の上部には大理石模様を漆喰で描くマーブル塗り、3階回廊の黄色独立柱の上部は顔料を加えた漆喰を上塗りし、コテと手のひらで磨き上げる黄漆喰磨き

が施されている。奉安所のある3階会議室も調度品や絨毯ともども復原された。折り上げ天井を縁取る数段重ねの豪華なモールディング(くり形)、羽目板張りの腰板を玉杔のカエデを使った日本最初期の合板にするなどの特徴があり、重厚な雰囲気を今に伝えている。この庁舎は、煉瓦造と鉄筋コンクリート造を併用した構造であること、また、大正12年の関東大震災以降は煉瓦造の建物が建てられなくなったことも合わせて、近代建築の変遷を示す例としても貴重な建築物である。

*名古屋市市政資料館として再利用するため、外観、中央階段室、復原会議室の3カ所に限って指定。



建築面積2,327.33m²

出典: 重要文化財旧名古屋控訴院地方裁判所区裁判所庁舎保存修理報告書 史料

用語説明

【控訴院】大日本帝国憲法下で大審院の下級、地方裁判所の上級にあった裁判所。【ヴォールト天井】アーチ構築の原理を利用して、石や煉瓦などで造られた曲面天井。現在の高等裁判所にあたる。全国に8ヶ所あった。

【イギリス積み】煉瓦の小口面と長手面が見えるように交互に積む方法。

【金刺森太郎】福岡監獄、大阪控訴院、大阪監獄などでも工事主任を勤めた。

【ネオ・バロック様式】19世紀後半～20世紀初期にかけて欧米で流行した建築様式。

【玉杔】ケヤキなどに見られる環状または渦状の空洞。銘木とされる。

愛知県東区白壁1丁目3
協力:名古屋市市政資料館



パナソニックの空間ソリューション WEBサイト

<https://www2.panasonic.biz/jp/solution/>



パナソニック ショウルーム
<https://sumai.panasonic.jp/sr/>



コーポレートショウルーム パナソニックセンター
<https://holdings.panasonic.jp/corporate/about/experience-exhibition.html>



札幌 〒60-0809 札幌市北区北9条西2丁目1番地
☎0800-170-3820

東京 〒135-0063 東京都江東区有明3丁目5番1号
☎(03) 3599-2600
(有明)

仙台 〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目4番6号
仙台本町三井ビルディング1F
☎0800-170-3830

※開館日や時間を変更したり、事前ご予約制とさせていただく場合があります。
ショウルームご来場の際には、ウェブサイトで事前にご確認ください。

東京 〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号
☎0800-170-3840
(汐留)

横浜 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町2番6号 横浜プラザビル1F
☎0800-170-3841

名古屋 〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号
☎0800-170-3850

大阪 〒540-6303 大阪市中央区城見1丁目3番7号 松下IMPビル3F
☎0800-170-3860

広島 〒730-8577 広島市中区中町7番1号
☎0800-170-3870

福岡 〒810-8530 福岡市中央区薬院3丁目1番24号
☎0800-170-3880

お問い合わせ

📞 (06) 6908-1131・大代表

💻 パナソニックのソリューションに関するお問合せはこちら ➔
<https://www2.panasonic.biz/jp/support/confirmation.html?solution>



継続能力開発(CPD)
自習型認定研修

• 設問 •

次のうち誤っているものはどれか。

- a.CDCとは、英国の疾病対策予防センターのことである。
- b.WELL認証ではサーカディアンリズムに影響する光環境も評価の対象となる。
- c.福岡市では「天神ビッグバン」という都市改造が行われている。

関連情報は本誌に掲載されています。

建築士会CPD制度の回答は下記WEBサイトから。
<https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html>
この情報誌は、公益社団法人 日本建築士会連合会の継続能力開発(CPD)の「自習型認定研修」教材として認定されています。

皆様のご意見をお聞かせください

皆様のお役に立てるよう、『建築設計REPORT』の編集内容をより充実させていきたいと考えています。下記サイトにアクセスいただき、5問程度のアンケートにて協力ください。



抽選で5名様に根津孝太郎の著書
『アイデアは敵の中にある』を
差し上げます。

【応募締切】2022年7月31日(日)



アンケートはこちら ➔

<https://www2.panasonic.biz/jp/solution/report/archi/qa/>